

一般的な破損につながる弓射の諸注意事項

使用する弦

竹弓・グラスカーボン弓共通の問題ですが、弓の破損は弓を取り落としたりする事よりも、最も衝撃が加わり破損の原因になるのは、弓射の離れの衝撃です。弊社では、麻弦、または合成繊維の弦では、ヒライ弓具様「千本弦」等の、悪射で適切に弦切れする弦を推奨しています。弦は悪射が出た際に弓を守る安全装置として機能しており、弦が悪射で弦切れする強度のものであれば、悪射の振動により弦が切れ弓を守れますが、弦切れしない強度のものだと、その衝撃でも弦が切れず、弓に破損につながる大ダメージを与えるリスクがあります。近年は、一見柔らかくしなやかな弦でも、悪射で弦切れしない弦があり、残念ながら、ヒライ弓具製の弦以外の弦と、現時点で弦師と弊社間で検証がとれておりません。

弓把

15cm以上、十分な弓把をとってください。弓把は低いことが問題で、低いと長めに弦で張っている状態で、弓が不安定な状態になります。その状態で悪射がでると、弦・弓に大きな振動が加わり、弓がひっくり返ったり、破損のリスクとなります。引いているうちに、弦輪が緩んだり弦が伸びたりすることで弓把が低くなる場合があります、弓把は高めに張ったり、弓射で低くなっていないか確かめながら、常に高い弓把を保つよう、お願い致します。以下の写真では、16cm程度で張っており、弓射で弦輪が緩んだり弦が伸びたりした時に、少し余裕をもって高めに張ったり、弓射毎に弓把が低くなっていないかチェックすることをお勧めします。



取りかけ

正しいとりかけ

弓道教本第二巻で、三つがけ、四つがけにおける正しい手の形が示されており、ご参照ください。加えて、**ゆがけの弦道に弦を沿わせて、親指と矢はの（シャフト）一本分空けてとりかける**ことが、重要なポイントになります。このとりかけで、人差指での（シャフト）を真っ直ぐに支え、矢筈と親指が引いているうちに触れて矢筈を押し出す問題を回避します。



問題のあるとりかけ



矢筈に取りかける親指ををくっつけて取りかけてしまう。弓を引いているうちに、知らずに矢筈を少し、また完全に押し出してしまい、その状態で弓射すると、空ハズに近い状態で、弓に破損につながる大ダメージを与えるリスクがあります。の（シャフト）一本分空ける状態が不安定に感じ矢筈に親指をくっつけてしまうなど、初心者で特にありがちな問題です。逆に間を空けすぎると、人差し指がの（シャフト）を支える面積が小さくなり、不安定になり、の（シャフト）一本分間を空ける事が重要になります。

正しい手の内



上記は日置流の手の内の整え方ですが、大三からは流派を問わず基本の働きは同じです。内竹の右から7:3の割合の位置に、鶉の首の形で親指が斜め下を向き、虎口（親指と人差し指の間）の下に空洞ができるように虎口を当て、天文筋を外竹部分の角につけ、小指、薬指、中指に力を入れずふわりと添える程度に、弓の側木側にそろえて整える。小さく整え、中指は差し込むように整える。

正しい手の内の働き方



小指、薬指、中指は添えているだけで完全に握らず、弓の外竹部分とこの三本の指には、空洞がある状態になります。天文筋についての手のひらと親指の付け根付近でガッチリと弓が支

えられ、引き分けから、黄色の点を支点に、青い矢印の方向にひねりを加えることができます。詳しくは、弓道教本第二巻、または弊社ホームページ上のブログ「手の内」をご参照ください。弓を握りこんでしまうと、鋭く弓をひねる力が加わらず、また握りこんでしまっている為に、弓の握りが太く感じる場合があるようです。

問題のある手の内



中指、薬指、小指を握り全体に回してしまい、爪先が白くなるくらいに力が入っている。虎口の下が空いていない。親指がうの首の形になっておらず、横にまっすぐになっている。人差し指に力が入っている。どれも、弓手で離れるほど強く弓がひねれない、弓返りにブレーキをかけるなどの問題の要因となります。

正しい手の内ができないと、弓手の角見の働きでゆがけの弦枕から弦を外すほどの弓に捻りの力が加えられず、馬手離れで放すことになり、蛇行する弦と矢、不十分な弓返りで、弓にダメージを与えることとなります。

正しい手の内、正しいとりかけ、正しい骨法の習熟には、通常長く深い稽古が必要になります。弓具を傷めずにそれらを習熟する為に、ゆがけをつけずに矢をつがえない素引き、矢をつがえてひきわけ、会に至って伸び合い、離れずに戻す古来の素引き（留守の弓ともいう）があります。また、基礎力の錬成に弓力の弱い弓を使うのは、弓がひねりやすく骨法を育成しやすい他、悪射によるダメージが、強い弓力の弓より相対的に弱めな事もあります。ともかく弱い弓力の弓で手の内の弓のひねり、正しい取りかけなどの基礎力を十分に養成する事が重要になります。

さらに個別に具体的な説明は、「グラスファイバー弓のミヤタ公式 note ブログ記事」にて順次ご説明しておりますので、よろしければご高覧ください。

(https://note.com/miyata_frpyumi)